

第4回蒲郡市公共施設マネジメント実施計画策定会議 議事録

1 日時

平成28年12月1日（木）午後2時から午後4時まで

2 場所

蒲郡市役所北棟集会室

3 出席者

(1) 座長

名古屋大学 大学院工学研究科 准教授 恒川 和久

(2) 委員

蒲郡市総代連合会 会長 酒井 雅幸

蒲郡市保育園父母の会 連絡協議会 会長 鈴木 佑宇子

蒲郡市小中学校PTA連絡協議会 副会長 小林 暁子

公益社団法人愛知建築士会蒲郡支部 相談役 青山 俊樹

椋山女学園大学 大学院生活科学研究科

生活科学部生活環境デザイン学科 教授 村上 心

公募 伊藤 近代

公募 水藤 麻美

4 議事

(1) 前回会議の議事録について

第3回蒲郡市公共施設マネジメント実施計画策定会議の議事録の内容について承認された。

(2) 蒲郡市公共施設マネジメント実施計画素案について

資料に基づき、事務局が説明した後、委員による議論が行われた。

(議論の内容)

- ・ 委員) (目標について) 市民や議会に3割の具体的根拠を示せと言ったときに定量的に両者の数字を繋いで3割削減が必要かつ十分であると数字で示せるか。
- ・ 事務局) 計算をしたところ、28%削減をしていくと、現在の財政力の体力でという条件は付くが、80年の建替えサイクルで維持管理をしていくことにより総量と体力が一致する。長期にわたって考えていくと財政力は変動し、ニーズも変わり、必要な施設総量も変わる。

- ・ 委員) 財政力は人口減も考慮に入れているか。
- ・ 事務局) 現在の状態であると考えている。人口減の想定は難しい。減っていくときに、どのくらいの財政力になるかは想定が非常に難しく、そこまでは計算ができていない。
- ・ 委員) 収入的な目標を同時に掲げればよい。
- ・ 事務局) 減っていく部分を、例えば管理費を圧縮しそちらに持っていったり、遊休地を貸し出したりするなど、いろいろな活用をしていき歳入に変えて補っていくという努力がこのマネジメントには同時に必要となる。
- ・ 委員) そこを宣言すればよいのではないか。つまり経営だという話が前回でていて、収入の見込みがないのに支出だけ削減せよというのはなかなか納得してもらえないので、収入はここを目指しますというのとそこに釣り合う支出というのが 30%減というのを同時に説明しないと勝手に宣言したと怒られてしまう。
- ・ 事務局) 当然両輪になると思う。p. 18 の目標の青い線の囲みの下の項目は、歳入が減っていくところを補っていくものと考えている。
- ・ 委員) 上の3つが縮減で、下の2つはどこを目指すのかである。
- ・ 事務局) この点についてはもう少し考え直す。
- ・ 委員) 市民病院と競艇場を外すと1人当たりの公共施設は3.何某になるが、市民病院は他の地域にはないところもあるが、その点を把握したうえで3割削減か。
- ・ 事務局) 市民病院と競艇場があるのは愛知県内では蒲郡市と常滑市しかないが、比較データとしてはよくないが、市民病院のあるなしは比較するときに面積が大きく変わる。
- ・ 委員) 競艇場だけ除いて、例えば豊川市や岡崎市などと比べて、1人当たりの公共施設面積は岡崎市ならば 3.04 m²であり、蒲郡市は競艇場を除けば、4 m²程度ではないかと思う。そうした場合に、3割削減に妥当性があるならばよいかと思うが、今の 4.53 m²で3割ということの妥当性はあるのか。その点がきちんとしていないと具体的な話が進まないのではないか。
- ・ 事務局) 市域の面積が広い自治体と蒲郡市を一概に比較できない。似たような条件のところと比較すべきだとは思っている。その上で、妥当な数字はいくつだという計算を行ったことがあるが、極端に多いところ、少ないところがあるため妥当なところがどこかというのが面積で出せなかった。保有面積の量から考えるのではなく、維持できるかどうかの方が妥当性がつけやすい。
- ・ 委員) 例えば将来ビジョンで、子育てしやすいまちづくりなどが掲げられている。選択と集中をしなければ財政上きつい。蒲郡市がどのような

公共施設に焦点をあてるのかモデルケースが他市町村にあれば比較して蒲郡市も参考にすべきではないか。1人当たり公共施設面積が愛知県内で4番目というのはそれなりに根拠があるように見えるが、将来ビジョンを踏まえてどのようにみていくかを考えるべき。

- ・ 座長) 更新時に概ね3割。総床面積を30年後に3割削減ではない。ある意味少し逃げている部分がある。そのような意味では委員の言うように求められない部分や説明できない部分があるのは確かである。とはいえ実際のところ、3割削減することは難しいため、ゆるい数字にしているのも良いかと思う。役所の中でも議論のあったところだと思うので、いろいろな意見を参考にしてもよい。
- ・ 委員) 競艇場を抜いた1人当たりの公共施設面積でも出したほうがよいのではないか。競艇場があるのは常滑市と蒲郡市だけであるため、競艇場を除外してもよいのでは。
- ・ 事務局) 検討する。競艇場は約4万4千㎡である。除外すると、1人あたり公共施設面積は約4㎡になる。
- ・ 委員) 博物館等は他の施設と複合化するとあるが、例えば常設展示されているが、利用者が少ない。市の中心部にあるので市民会館に図書館を併設する、博物館も図書館に併設するなど利用率を高めるようにする。図書館は昔の蒲郡警察署の跡地を利用して、それ以来建替えなど行っていない。そこと複合化できないか。図書館と博物館ないしは市民会館との多機能化を考えられないか。できるだけ多機能化して、余った土地を活用するなどしていく。いつまでに検討して実行するというのをしないと10年間でまた見直しをしてまた10年となる。優先順位を立てるべきである。PDCAをまわせるような状況にしないと行政として責任を果たせないのではないか。
- ・ 事務局) この年度にこれを実施すると記載できることに越したことはないが、単位の29年から38年を長いスパンと感じられていると思うが、大型施設を動かす場合、それなりに先行する議論が必要である。10年でこれだけの施設を行うと表記することで区切りをつくりたい。30年の計画であるが最初の10年で線を引いて考えているというのが精いっぱいである。
- ・ 委員) 10年の中でこれについてはこのようなかたちで進めていきたいなど、ビジョンとの兼ね合いもあるが、コンパクトシティ的考えを取り入れていかないといけないという観点から、そういった目標がないとできない。機能が分散していると利便性がなくなるので、図書館も博物館も市民会館もできるだけ周辺にあったほうが利便性が高く、なおかつランニングコストも軽減できるという思想を持たないとできない。例えば、図書館については耐震性の問題もあり、博物館もあるので複合化してい

くなどの計画にしないと10年経っても何もできない。

- ・ 委員) 1点目、p.18の「概ね3割の床面積を縮減する。」「523億円の維持更新費用を縮減する。」この大方針と今の個別施設の扱いに関する計画方針の整合性は取れているのか。2点目、もし、それが30年の話であれば、個別施設についての計画がこのように具体的に維持、取り壊すということがこの時点で決められるのか。つまり、どのような根拠をもって個別施設を長寿命維持、建替え、廃止についての仕分けを行ったかの根拠がこの資料では分からない。3点目、機能を統合するとき、現状の縦割りの所管部署が建物を中心に調整するというやり方ではできない。第5章の実行体制が第3章と矛盾している。複合機能をもたせるなどするには実行主体に機能を変更できる権限を与えられていなければできない。
- ・ 事務局) 1点目、今の時点で、全ての施設をこうすればこうなるというのが示せない。2点目、廃止するものは非常に少ない。これからの検討で目標に向かって個別で考えていく。施設単体で見えていくと、各施設の問題点や課題がある。その課題を解決しながら複合化していくのが公共施設をより良くするものと考えている。
- ・ 委員) 図表5-4自体が縦割りの所管課が建物を持っているという思い込みが反映されていると思う。機能を統合することにより不要になるアセットが出てくるかもしれないという可能性を長寿命維持と言ってしまった時点でその機能はその場所で維持することを宣言してしまっている。その施設を残すことを決めてしまうと、その機能のまま残すという太鼓判を与えてしまっている。第1の質問に戻るが、ここは当然総論としての宣言を優先すべきでそこに聖域はない。なぜ今の時点で長寿命維持が決まっているか疑問である。どちらかに決めてほしい。長寿命維持で3割削減できるエビデンスがあるなら出してほしい。ないならば今宣言すべきではない。委員としてこれを納得したとは言えない。
- ・ 事務局) 維持についての表現など、3割のエビデンスがここの中に存在するかと言われると、これから検討していくという内容が多分に含まれている。今後の検討をもって目標に向けての結果を出していく計画である。計画に記載されている維持の方法などは目標を優先する。
- ・ 委員) 中には民営化を宣言している施設もある。他にも民営化ができる施設があるかもしれない。今後、詳細に全体を経営的感覚で考えていくプロセスの足かせになるような表現を入れるべきではない。3つ目は後で議論する。
- ・ 委員) 公営住宅を民間借上げ住宅にして、公営住宅を手放しても良いのではないか。そのような考えはないのか。
- ・ 事務局) 当然ある。計画は見直しサイクルを設けており、その中で全て

のことについて状況に合うよう更新をしていく。

- ・ 委員) ストック数が書かれているが、実際どのくらいの入居率か。
- ・ 事務局) 100%ではないが、100%に近い入居率である。ストック数というのは、年々変わるものであり、蒲郡市の規模は300戸で、今保有しているのは390戸近くあるため、縮めていかななくてはいけない。住宅マスタープランがあり、更新をかけておりストック数も変わっている。それに合わせて、こちらも下げていく。公共が設置するものか借り上げていくかなど我々マネジメント分野が考えていくことである。
- ・ 委員) 任せられるところは任せて借り上げて、低料金で借りてもらおうというのが市としてもランニングコスト的にも助かるし、土地が空くので市外から人を集めることもできる。
- ・ 事務局) 今のような議論は市役所内でもされている。かなりの部分でマネジメントに向かい連動するように庁内の調整をとっている。
- ・ 委員) 若者まちづくりミーティングで若者の声がたくさん挙がっていた。具体的に若者視点でここをこうした方が良いとか魅力が増すなどの意見があった。素案をみると、耐震や市役所の経営としての現状の経営が厳しいから縮小するように読み取れる。若者の意見を取り入れて計画が作られているのか。
- ・ 事務局) 耐震など行政で賄うべき当然の義務などもあり、それを計画で表現している。当然若者の意見だけではないが、いただいた意見を今後策定する個別計画にも反映させていく。
- ・ 委員) いつぐらいを目途に検討するのか。
- ・ 事務局) 複合施設の検討は外部の方を入れて検討していくが、スパンは何年にとは書けないのでこのあたりで検討するというのを記載している。
- ・ 委員) 若者の意見の鮮度が落ちないか懸念している。今の高校生、今の20代の意見で、それが10年後どうなっているかが問題である。10年経っていると利用者のニーズが変わってしまう。若者まちづくりミーティングも実際にやっただけだと意味がない。空き地に住宅を建てるのも若い層だと思う。ニーズの鮮度が落ちる懸念がある。
- ・ 事務局) これからも、意見を聴く場を設定して、ニーズを聴いていかないといけない。
- ・ 座長) 3-2の頭に具体的な話が書かれないといけない。それぞれの部門の話をしているのか分からない。ボリューム感がわからない。これで3割いくのか1割なのか、10年だから5%で良いのか分からない。横に見るときに枠があってこの枠の中に、このようなボリュームのものが集約しているからこのようにしてくなど、竹島や市民会館などにどのくらいのキャパシティがあるのか、同じような機能をまとめる場合にどこにま

とめるのかなど具体的な方針があって個別の方針がぶら下がっている、とならないと分かりにくい。29年から38年でどこまでいくのか具体的なことが書かれていないと、抽象的なことから具体的なことにいきなり落ちており、その間がない。

- ・ 事務局) 中間がみえるように座長と相談していきたい。
- ・ 座長) 博物館をどうするかが重要である。立地が良いので、若者などいろいろな人たちが集まるようにできる可能性もある。それにもかかわらず38年度まで何も書かれていない。
- ・ 委員) (博物館は) 変わり映えがしない。複合化して若者が集まるようにして利用してもらおう。利用してもらってなんぼの世界で、利用してもらおうと学芸員にも励みがでる。機能の複合化をして3割削減のイメージをしないといけない。
- ・ 委員) 浜町の施設について、災害などが発生した場合の検討が必要ではないか。
- ・ 委員) p. 58の経営的視点と技術的視点を考慮して公共施設マネジメントを行うという点は良いと思う。一方で、この考え方を実現するためのp. 59の実行体制は脆弱である。情報を一元化するというのも必要であるが、一番重要なことはプロパティマネージャーがプロパティ自体を所有、プロパティを扱う権限を有していることが重要で、各部署はサービスのためのオペレーションを行う部署である。施設を所有することはサービスのために必要なスペースを与えられるだけであり、彼らの仕事はサービスを実現することである。サービスのオペレーションとプロパティのマネジメント部署は明確に分けて、サービスの部署はサービス、プロパティマネジメントの部署が市のプロパティをしっかりと所有し管理するというような体制が望ましい。また、お金の話をすると蒲郡市公共施設見直し検討委員会が一定の予算を決めたら財政担当部局に財政について指示するという矢印を(図表5-3に)入れれば、先ほどの話が担保できる。施設所管部署が計画を策定すると旧来のやり方を崩せない。
- ・ 事務局) お金の話は矢印や図の配置等の変更を考える。個別計画策定が施設所管課に入っていることにより縦割りが崩せないとお話であるが、そのようなつもりで書いていなかったのだから内容を見直す。個別計画においてもコントロールするのは公共施設マネジメント部署が当然行うべきだと考えている。
- ・ 委員) そこを突破していくのが公共施設マネジメント部署である。
- ・ 委員) 複合化・集約化するのに調整する話がでてくる。総合政策機能のあるところがないとできない。課題設定したときにクリアするためにどうするかが問題である。様々な委員会に出ているが、男女共同参画など立派な冊子ができるが、実行をどうするかを考えないといけない。計画

も策定して終わりではなく出発である。上に立つ人間が覚悟を決めてやっていってほしい。

- ・ 座長) 3-3-1 は分かりやすい。これと同じようなものが全市利用型施設にもほしい。第4章のリーディングプロジェクトは第3章の全市利用型施設のモデルである。市民会館単独の絵ではなく、市民会館周辺エリアとして考えてほしい。

(3) 今後の進め方について

今後は、第4回公共施設マネジメント実施計画策定会議での意見に基づき素案を修正した上で、座長と調整する旨を事務局から説明し、委員により了承された。

(4) 意見・感想の発表

全4回の会議を通して意見や感想が各出席者から述べられた。

(意見・感想の内容)

- ・ 委員) 高齢者の介護予防サポーターを行っている。高齢者の居場所づくりなど市民のニーズを取り入れてほしい。(一部の福祉施設で) 会議室は空いているが駐車場がないなど問題がある。蒲郡市では車で集まらないと不便であるためその点も考えてほしい。
- ・ 委員) いろいろ差し迫っていると感じる。計画を実行できるよう努力してほしい。なるべく早く3割削減を達成してもらいたい。
- ・ 委員) 財政の面など蒲郡市は厳しい状態であると知った。最大のピンチが最大のチャンスになる。今がその時だと思う。
- ・ 委員) よくできた計画だと思う。あとは実行性をどう担保するかである。竹島周辺に道の駅、竹島水族館など、観光地をどうするかビジョンを出してほしい。竹島で蒲郡土産を買うところがない。明るい話で市民を惹きつけるようにしてほしい。水族館も手作りの良さもあるが、もう少し良くなる。
- ・ 委員) まち・ひと・しごと創生総合戦略の委員会にも参加している。まち・ひと・しごと創生総合戦略の委員会には副市長など経営陣の方々もいる。経営面で意見が出る。こちらでの意見とあちらの意見の兼ね合いは取れているか。
- ・ 事務局) 見直し検討委員会で調整をしている。
- ・ 委員) まち・ひと・しごと創生総合戦略の委員会の委員を兼ねている委員もいる。2回同じことを言わないでよくなるようにしてほしい。
- ・ 委員) 竹島ベイパークを道の駅にしよう(他の会議で)以前提案した。公有地を利活用して観光を活性化する視点をもって、行政当局も考えて

ほしい。優秀な職員もいる。放置するのが問題であり、考えて実行してほしい。歳出カットだけでなく、将来の収入を得るための支出もしなければならぬ。同じことをあらゆる会で言っている。

- ・ 委員) (委員になったことをきっかけに) 竹島周辺を巡り、とても良い資源があると実感している。自信をもってマネジメントを行っていけば、未来には良い蒲郡市になっているのではないかと思う。
- ・ 委員) 楽しみである。30年後なので自分の子供が自分と同じくらいの世代になり、自分は高齢者になっている。そのときにみえる蒲郡市が違う蒲郡市になっていると思うと楽しみである。個人的には地産地活という蒲郡市で産んで、蒲郡市で活躍するという活動をしているが、子育て世代の代表で言うならば、今の子供達が活躍できる市になっていると嬉しい。今後も住民として手伝いたい。この先市民としてどのようになるか知りたいが何を通して知ることができるか。
- ・ 事務局) 広報で実施状況を報告することになる。ホームページでも掲載する予定である。今後は説明会も行う予定である。
- ・ 座長) 今日の午前中、新城市で新城市長に同じような委員会の提言書を渡した。新城市の例を出したのは、そのまちのやり方をどう考えるのが大事な仕事であるから。新城らしいやり方はなんだろうと考える。新城市は地域自治区の活動が盛んである。地域自治区のやり方で公共施設のことを考えていくにはどうしたらよいのか考えていく。蒲郡も竹島や市民会館など資源があり、そうした資源や活発な市民活動をいかに生かせるかを考えて計画が立てられると良い。一方で、某市では、公共施設の解体について市民の住民投票があった。住民投票は成立しなかったが、必ずそのようなことが起こるようになってきた。公共施設をつくるにしろ壊すにしろ逆風がある。市民全員の賛成を得ることはできないが、このような計画をなるべく多くの人に賛成してもらえよう発信することが重要である。反対運動が起こるにしても、総論は賛成でしょというように、計画を読むと分かってもらえるようなものを作ることが大事である。次のステップにいくときに市民に説明して好評を得られるかが大事である。

(5) 主催者あいさつ

主催者である蒲郡市を代表し総務部長から座長及び委員に対するあいさつがあった。